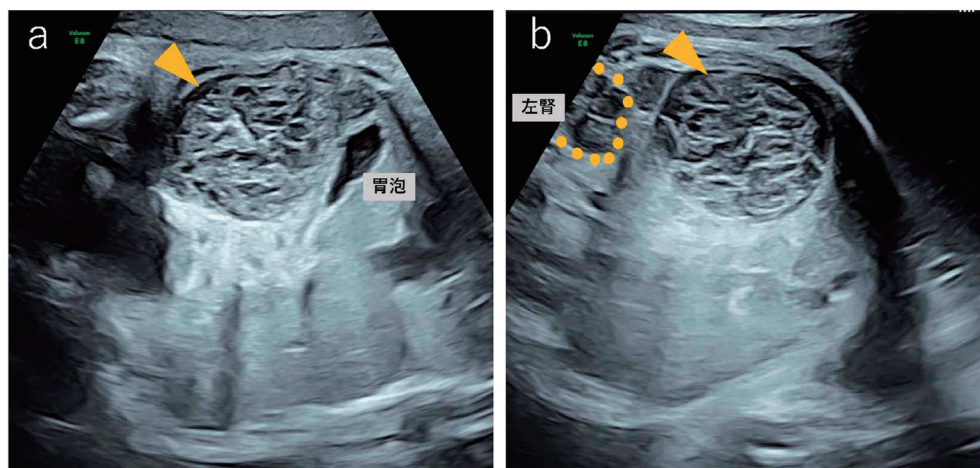


出生後に卵巢遊離体と診断された胎児上腹部腫瘍

小松 登 吉田 志朗

Fig. 1 胎児超音波検査画像. **a** 矢状断. 胃に隣接して尾側に腫瘍を認める. **b** 水平断. 左腎の腹側に腫瘍を認める



症例は30代女性. 妊娠36週の妊婦健康診査で胎児腹腔内に充実性腫瘍を指摘され, 37週に当科初診となった. 胎児の胃の尾側に長径47mmの充実性腫瘍を認め, 腫瘍は管腔が集簇したような構造で内部に血流は認めなかった. 腫瘍は可動性で流入する血管は同定できず, 肝, 胃, 腸管, 壁側腹膜と接しており, 左腎からは離れていた (**Fig. 1**). 外性器は条件不良で観察できなかった. 腸間膜や腹膜由来のリンパ血管腫が疑われた. 翌日女児を自然経膈分娩した. 児の腹部に明らかな腫瘍は触知できなかった. 日齢2の腹部MRIで腹部左側に長径46mmの境界明瞭な腫瘍を認めた. 内部に隔壁を多数含み, 各腔内は信号強度が異なっていた. 日齢4の経腹超音波断層法では腹部右側に長径50mmで内部のエコー輝度は不均一な腫瘍を認めた.

日齢28に腹腔内腫瘍摘出術を行った. 右卵管が子宮近傍で断絶していることを確認し, 右卵巢は通常の位置に視認されなかった. 病理検査で右卵巢囊腫茎捻転, 腹腔内遊離体と診断された (**Fig. 2**).

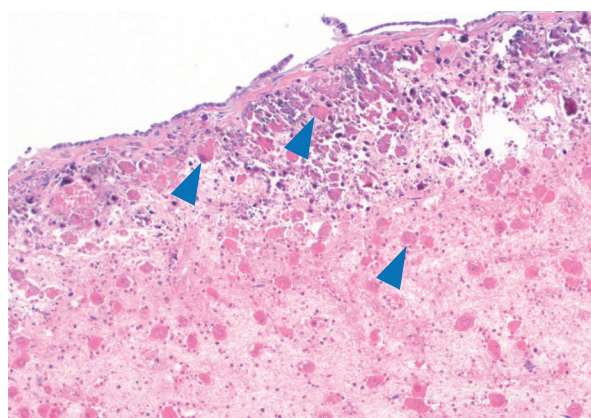


Fig. 2 摘出物病理組織 (×100). 上皮下に多数の卵細胞 (▲) と内部に壊死組織を認める

胎児の腹腔内腫瘍の鑑別診断としては消化管の拡張, 卵巢囊腫, リンパ管腫, 総排泄腔遺残などがあり, 卵巢囊腫は頻度が高い. 胎児腹腔内に囊胞様構造を認めた場合は, 囊胞の数, 位置, 性状, 周辺臓器との連続性などから鑑別を行う. 卵巢囊腫は自然消退することもあるが, 囊腫径が40mm以上で妊娠中

A mass in fetal upper abdomen postnatally diagnosed as an auto-amputated ovary

Keywords: fetus, ovary, auto-amputation

長野県立こども病院総合周産期母子医療センター産科

Noboru KOMATSU, Shiro YOSHIDA

Department of Obstetrics, Center for Perinatal Medicine, Nagano Children's Hospital, 3100 Toyoshina, Azumino, Nagano 399-8288, Japan

Corresponding Author: Noboru KOMATSU (nkoma0101020506@gmail.com)

Received on August 26, 2022; Revision accepted on September 12, 2022 J-STAGE. Advanced published. date: November 10, 2022